

下川議員 それでは、藤元議員に続きまして、先に通告を申し上げております3点について質問をさせていただきます。町長には、できるだけ明確なご答弁をお願いいたします。早速一般質問に入らなければならない訳ですが、一般質問をする前に1点だけ大神町長にご質問を申し上げます。それは何かと申しますと、私は20年の議会活動の中で、当初議会において、町長が所信表明をされなかったのはどういう訳なのか、今、町長は再選を目指して頑張っておられますが、私達は町長の所信表明によって、町長のこれからの行政の施政を考えて、また、一般質問もいたします。ただ、そういう私達の立場から考えますと、何かはぐらかされたかな、どうしてなのかという疑問を持っております。この点について、一つ一般質問と同時にご答弁をお願いするものであります。それでは、一般質問に入らせていただきます。過疎と少子高齢化の言葉は、常用語となり、まことに寂しいことですが、尚、年間100名以上の人口が減少する状況、今、牟岐町が生き残っていくためには、何を考え、どういう努力をしなければならないか、最大の課題は、若い人達が働ける産業の創造であると思われれます。若い人達の都市への流出は、ただ賑やかな都会に憧れるばかりではございません。町にいても生活が成り立たない。結婚しても奥さんや、或いは、生まれてくる子ども達を育てることができないことが大きな理由で流出されている若者のウエートは非常に大きいものがあると考えられます。人口の減少が不況を生み出し、地方経済は依然として明るさが見えません。多くの事業所が次々と閉鎖し、平成20年、21年にかけて21箇所の事業者が牟岐から消えております。とても寂しいことです。町民税の最も柱になる給与所得者は、20年から21年の間に約64名が少なくなっております。その上、牟岐町では従業員45名をかかえていた縫製工場が昨年閉鎖されました。働く人の雇用の場が益々少なくなり、働きたくても職がないというのが現状です。近隣の町には、ホームセンター、ショッピングセンターが次々と出店し、牟岐からも買物にたくさんの人達が出かけられております。賑やかな繁栄ぶりが伺えます。大きな展望に立つと世界や日本の近代産業は、どんどん近代化を図り大きく成長しているが、一番苦しんでいる地方に殆ど変革の兆しが見えません。これでは地方はやがて人の住めない寂しい町になるのではと心配しております。新しい産業を生み出す対策として、大神町長、就任以来、今の牟岐町をどのように見られ、最高の執権者として、どのように取り組んでこられましたか、そして何をモットーとして再選出馬に踏み切られましたか。お伺いをいたします。一般質問と土地開発基金の設立はどうですか。牟岐町にそうした基金があるということを牟岐町のホームページに載せた発信をすれば、牟岐町には産業育成、或いは、工業誘致をできるだけやっ

く機会を作る。そういうことが牟岐町のホームページを見た方には、非常に分かるので、できる限りこれからの雇用の場創出するためにも、そうした基金を積み立て牟岐に工場を誘致したり、雇用の場を創出したりすることが非常に大事かと思われれます。仮に野菜工場のような工場を造ったり、或いは、ベンチャー企業の誘致を図ったり、そういうことは基金をもってできないものでしょうか。それでは、2点目に移らせていただきます。牟岐町では、かつて最大の基幹産業の一つであった漁業。かつては漁業をやっていれば生活は豊かだと言われていた時期がありました。平成3年頃は、両漁港を合わせると、14億から15億の売り上げがありましたが、今は両漁港を合わせて5億を切れると。そういうような状態になっております。東漁港は、私は固有名詞を使うのは、大変良いか悪いかということは批判を受けるのかも知れませんが、先日、牟岐町東漁港へ行った時に組合長より、この問題は必ず議会で話をして欲しい。今、漁業の今のこの悩みは、東漁港にも一人の議員もいない。だから、代表するつもりで言って欲しいと託されておりますので、すみませんがこの固有名詞を使わせていただきます。東漁協はかつて県下でも有数の漁協としてその名をとどろかせておりましたが、極端な漁獲量の減少と貿易の自由化、魚価の低迷が続き以前の半額以下となり、組合運営はもちろん、漁業者の生活は苦しくなる一方のようです。昔ながらの漁のあり方では、今の現状のままでは何も改善されることはないだろう。そこで生き残りをかけて新しい漁業のあり方を考えなければなりません。取って取って取り尽くす漁業から魚達と触れ合う体験型漁業、観光型漁業へと大きく転換していく時期が来ているのではなからうか。豊かな大自然を生かして見て楽しみ、触れて喜ぶ体験型観光を取り入れ、少しでも漁師の方の収入が増えることを考え、従来の漁業も合わせて考えていってはどうか。行政はこうした事業をどう思われますか。多くの交流人口を牟岐町に取り入れ、漁業振興の一助になればと思います。一方漁協運営も非常に厳しいと言われ是非議会の場で漁協、漁民の苦しい状況を理解して欲しいと強く要望されております。何か救済の手立てはないものか、十分に考えて欲しいと思います。もう1点、農業問題ですが、依然として米作中心とした旧型の営農形態が続き、高齢化が進むとともに後継者不足となっております。この状況を一次産業の構造不況とも言われ、ややもすると手の施しようがないと思われていますが、私は力の入れ方次第ではそうではないと思います。農業が町の大きな財政の収入源になっている市町村は県下でも少なくはありません。これらの町は旧来型の米作一本の農業ではなく、ブランド品を作ったり、多角経営をすることによって高収益を上げ、過疎や後継者問題は殆どないと言われております。県北の市町村では、30億、40億、50

億の販売高を上げる町は非常に多くなってきております。牟岐町によく似た中山間の所を少し紹介しますと、佐那河内では、椎茸、キウイ、みかん、ハウスを利用した野菜、ねぎ、すだち、桃いちご、桃いちごは有名なブランドとして市場でも高い評価を受け、急成長をし、農産物の売上高が16億円から17億円あると言われております。殆どの農家は、農業経営に自信を持っている。農業をやっていれば飯が食べれるのだ。先の平成の合併においても、なぜ徳島市と合併しなかったのかと言うと、そんな大きな借金を抱えた市と合併しても何もならない、むしろ小さくとも自信の持つまちづくりができるのだ。非常に胸を張って農家、役場、農協の方達が懇親会の席上で言われていたことが、今も記憶に残っております。殆どの農家は、農業に自信を持つ、こんな町を牟岐町も目指さなければなりません。人口は住民台帳では2,961名、町の総面積は、やや牟岐町より狭い42km²です。牟岐町は57km²で、少し佐那河内が小さな町であります。上勝町では2,092名で、農業生産額は、ブランド品の先程町長も言われておりましたが、約9億円、その他の作物と合わせれば、10億円から11億円になると言われております。そして、そのブランドの彩りは全国一とも言われております。そして、今私は牟岐町の総生産額を申し上げますと、皆さん方は驚くだろうと思われれます。牟岐町の農業総生産額は、5千万円から6千万円、かたや10億、或いは、20億に届こうとしている中で、なぜ牟岐町のこの生産額はこれだけの差があるのか、私は、これは長年行政も住民もそうなのですが、やはり営農活動にどれだけ力を入れて産業を伸ばしてきたか、これが今の結果になっていると私は思っております。今後は自治体、農家、或いは、農協、三位一体となって活力あるまちづくりに取り組まなければならないと思いますが、いかがなものでしょうか。それでは、3点目に入りたいと思います。先の樫谷議員さんの質問で理事者の方から縷々説明がありましたが、その上でかなり私の質問する内容にも答えがあったかと思いますが、尚、私は私なりの考えの中で温泉を捉えておりますので、質問をさせていただきます。平成3年、町民の大きな夢と期待を背負って鬼ヶ岩屋温泉がオープンいたしました。10億あまりの巨費をかけ、当時は県下、いや四国でも有数の設備を備えた温泉としてスタートいたしました。営業から約20年牟岐町の観光の核として、多くの愛好家や多くの方々に利用され、約20年間で90万人近くの入場者や入湯はしなくても宴会や食事を目的とした利用者を含めると、およそ100万人ぐらいの利用者があったのではないかと思います。町民の利用者にお聞きしても大変好評です。健康管理や交流、癒し、安らぎの場として多くの方に親しまれ、その人気は今も変わりません。また、遠来の客においても人気は高く、町民の方がもてなしの場として

多くの方に利用され喜ばれてきたと思われます。年間平均して約5万人近くの利用者があり、その内、約半数の方が町外の方と考えても良いのではないのでしょうか。牟岐町にとっては、数少ない観光施設、牟岐町のシンボルとして大きな役割を果たすとともに、牟岐町のイメージアップ、雇用や経済を及ぼす波及効果は、かなり大きなものがあったかと思われます。先に申し上げましたように、年間100人前後の人口減少や地域経済の衰退は、留まるどころを知りませんが、現状の中、今後は何と云っても観光事業を充実させ、体験型、滞在型、観光事業を推進し、活性化を図るべきだと思われます。その時、この温泉は、牟岐町の観光の核として、モラスコ、出羽島、大島、津島、千年サンゴ、美しい砂浜、緑の山々を点や線で結ぶ重要な役割を果たしていくものと考えられます。いかがでしょうか。今だけのことを考えるのではなく、10億円以上掛けた貴重な観光資源を今後どうしていくのか、期限を設けないで可能な限り運営を続けるように強く要望いたします。そして、先程樫谷議員の質問の中にもありましたが、町長が答弁されましたが、温泉経営について諮問機関を作って、そして、温泉を経営するのか、しないのかという町長が説明を諮問委員会で話し合っ、そして、するのか、しないのを決めていくと言われます。確かに住民の意向を十分反映して、今後の運営をしていくことが大切ですが、私は一つこの温泉の持つ将来の牟岐町を考えた時に、では温泉を止めませんかということになっていった時に、果たして将来の牟岐町はどんな町になるだろう。殆ど人の来ない町になりはしないか。そういうことを考えた時に次に出られる町長は、万難を排してでもこの温泉の維持を図っていただきたいと、そのように強く要望をいたします。それでは、通告してあります一般質問を終わりたいと思ひますが、答弁によっては、また、再問をさせていただきます。以上です。

堤議長 大神町長。

大神町長 下川議員の高邁な質問に私なりにお答えさせていただきます。まず過疎対策というような項目で、土地開発公社というふうな指摘がありました。20年の町会議員生活で十分ご承知をおきいただいておりますけれども、私なりに調べてみますと、牟岐町土地開発公社は、13年5月11日に臨時議会で解散しております。また、土地開発基金条例の廃止も17年3月10日の定例会で廃止しております。土地開発公社につきましては、総合文化センター、今の文化センター土地の取得に造成を最後に休止状態にあったようでございます。この件につきましては、皆さんは私よりもずっ

とご存知だろうと思います。そういうふうな関係から文化センターが建ってから、この公社そのものを廃止しておる訳ですけれども、当時土地開発基金につきましては、9,500千円の積み立てがあったようです。それは平成17年の先程申し上げましたように基金条例を廃止しまして、皆様とご相談して取り崩していったというのが、今日までの流れかと思えます。そこで今のところ土地開発公社、或いは、土地開発基金というふうなことを再度作って積立をしてとかいうふうな基金の総額自体がそんなに多くはございませんので、当面は財政調整基金というふうな形で行っていったらどうかというふうなことを申し上げます。1つの事業に対して積立を行う特定目的基金よりも使用に制限の少ない財政調整基金の方が現在の我が町には良いのではないかと考えております。ご理解いただけたらと思います。それと、質問の中身に町長は冒頭の所信表明が無かったではないかというふうなことの質問でございます。実はこの4月に任期が切れて、再度この場にあるかどうかということ。私も先程見せましたようにマニフェストなるものを作っております。それを申し上げようと思いましたが、これは失礼かと、新しい議会には、今度2期目にはこうやりますというふうなことをやっぱり言うのが筋ではないのかというふうなことで、特に今回の議会、先日の8日の議会には、当初予算でございましたし、議案も多数ありましたので、時間の制限も考えて、あえて申し上げずに議案の説明に入りました。先程の発言の中で、はぐらかされたというふうな、或いは、はぐしたというふうな発言がございましたけれども、決してそういうふうなはぐしたりはぐらすというふうな気持ちはございません。それから、第一次産業の取り巻く状況、或いは、牟岐東漁協の漁獲高の問題、憚りながら私も徳島県漁港漁場協会の会長として三種漁港の出身町長として徳島県の会長を努めてまいりました。全国の漁港漁場大会にも出場し議長も努めさせていただきました。先日は、沖縄の全国大会にも出させていただきました。個人的にとにかく漁業の厳しさ、漁業に限りませんけれども、第一次産業の厳しさ、それはどこと言うと何ですけれども、例えば、藻場の開発というふうなことを大分県の臼杵市、私も友達がおりまして色々聞きました。回復しておると、漁業組合何人か視察に行こうではないかというふうな話も持ちかけております。何にもせず第一次産業が衰退しているのは、あなたの責任かと言われますと、私も憤焼します。もちろん、下川議員の20年の議員活動を誠心誠意やられているということには敬意を表しますし、別にご異議ございません。ともにふるさと牟岐のためにやろうではないかというのなら私もそれは異議ございませんし、これ以上言いますと議会の品位を傷付けますのでご遠慮させていただきますが、もちろん、第一次産業の厳しさ、或いは、人口

の減少、少子高齢化、それは今更言う間でもないと思います。もう1回先程のことに返りますが、当初説明につきましては、次の議会に私がマニフェストをちゃんと説明し、或いは、私の持っている全ての今までの友人知己の知恵を披瀝して、牟岐町の次の4年間は開発のために、ふるさと牟岐の創生のために頑張るつもりであります。そのことをちょっと興奮しましたけれども申し上げたいと思います。第一次産業の取り巻く情勢としては、全国に厳しいものがあるというのは、これは皆さんご存知のとおりです。農業であろう林業、水産業とも明るい兆しが見えません。それに関わってTPPの問題もございませぬ。その中であえて言うならば、現在海部郡3町による、よくばり体験事業による地域の活性化、ノアむぎによるスキューバダイビングによる活性化、国、県の制度も活用しながら特色ある農林水産物とか美しい景観えお利用したこのロケーションを財産にして売りにして、長い歴史の中で培ってきた貴重な資源等を本町の魅力を発信し、一次産業のみならず牟岐町全体が活性化できる対策を考えていきたいと思いますが、これは再度申し上げますが、選挙運動の中で、或いは、次の議会には新しい議員さんに私の抱負、経緯を述べてふるさとへの思い、これを披瀝いたしたいと思います。続いて、健康管理センターですが、無条件に18年の歴史、これは切ないと言うよりも残念と言うよりも、これは存続、継続したいのは山々です。年間経営状態の中身から町費から幾ら補填できるかということになりますと、さてということになるかと思ひます。だから、審議委員会、私的ですけどもそれを人のお知恵を借りて、できるだけ続けていきたいというのが前提の基に、このことをご相談申し上げたのです。18年の温泉だった経営に対して、今突き付けられた温泉でないということに対しては、これは誰も私の責任でもありませんし、もちろん、議員の皆さんの責任でもありません。されば一緒に考えてはどうですかというふうな、最初から榎谷議員の質問にはそういうふうにお答えしたはずでせぬ。言っただけですが、ご当人のエモーション田中社長もおいでしております。色々相談しました。できればというふうな気持ち、或いは、田中さんのご苦労にも報いたいという気持ちもあります。だから、センチメンタルな理屈とかではなくて、もっと前向きと一緒にやっていただくような議論ができればと思ひますが、これは、次の議会、私も再選された結果の過程論ですので、これをご相談申し上げて新しい方向を見出していきたいというふうなことに対してご理解いただきたいと思ひます。お分かりいただけただけでしょうか。止めるという前提でないということ、これを再度強調いたしまして、もちろん、ポーリングしようという案もあります。或いは、また、昨日も言うとは何ですけど、バスが走っております。宝くじ号なのです。あのバスをいただく時に色々事務的なこと

もあるんですけど、昨日走って私は涙が出ました。走っているお客さんを集めてね。そういうふうな思いの中でご提案申し上げたということ。共に牟岐町のためにやろうではないかというのなら、大いに私も何ですが、そのことを年甲斐もなく興奮いたしましたけれども、共に温泉のことについては、あるべき姿を求めて、狭い先程単位を間違いましたけれども、4万と言って、4,956人です。お互いに和をもって、ケチ付け文句付けるのだったら幾らでも付けられると思いますけれども、そういうような意味で、それ以上言いますと私も興奮しますので、ご答弁と言うかご理解いただくというふうなことをお願いして下川議員の答弁を終わりたいと思います。有難うございました。

堤議長 寒葉産業建設課長。もうそれ以上無いですか。はい、下川議員、どうぞ。

下川議員 それでは、2、3点について、再問をさせていただきます。1点目は基金問題であります。私が提案した土地開発基金、或いは、土地開発公社ということをお願いしましたが、公社の場合はかなり面倒なところもありますし、この土地開発基金を設立してやったらどうかという意味は、できるだけ財政調整基金と置いてあるのでは、ホームページを見ても企業をやってみようかという人は分からないのですよね。ここに土地開発基金というのを作れば、ホームページを見た時に牟岐町は企業誘致にこういう姿勢で臨んでいるというのが分かります。一目瞭然です。だから、この基金を積み立てて働く場を雇用の場を作るということを私は提案します。それと、町長は所信表明をなぜしなかったのかということについては、まだ町長になるかどうか分からないので、それを差し控えたと言われますが、23年度の予算を組む時には町長の意向も随分入っているはずだと思います。町長がそれを認めなければ、この予算書というのが出てこないはずなのです。だから、私は仮に立候補しようとも再選されるかどうか分からなくてもこれからの牟岐町は活力のある町をつくるのだという意味の私はこういうふうにしたら良いではないかということ町長に所信表明の中で力強く言っていただきました。そう思っております。それと、この3月一杯でエモーションの方が温泉の経営から一応、期限があるものだからやれないというようなことで言っております、町の方としても、つい1週間前ぐらい前までは、温泉はやらないということでエモーションの方に、エモーションだけではない。町長の方が言われておりましたが、急ぎょ1,000千円の予算を付けて、それまでは500千円だったのです。しかし、1,000千円に上げて、そして3カ月間を延長すると、急ぎょそういうことになったのはどういう事柄

なのかご説明をいただきたいと思います。以上です。

堤議長 大神町長。

大神町長 再質問にお答えします。3月31日から温泉の経営を止めるということは、一言も言っておりません。どこでの話ですか。田中さんもおいでますけれども、止めるからとかいうふうなことは、これは一言もどこにも言ってないです。言っていないことをこの場で発言したということは、これは侮辱ものだと思います。いかがですか、どこで聞きましたか。

堤議長 町長、質問だけ答えて下さい。詳しく言わなくてもさっきから繰り返しているのです。

大神町長 言ったことありませんので、これは、はっきりしておきます。それと、3月31日のことについては、審議会でこれから皆さんにご相談しますというふうなこと。これは先程から何回も申し上げ、榎谷議員の質問にもそういうふうにお答えした訳です。決してどういうふうな形になるか、町費から年10,000千円補助するからやっってくださいというふうな、20,000千円出すからやっってくださいというのは考えられないではないですか、当事者として、だから、皆さんのお知恵をお借りして審議をしたいというふうなことを言っているのです。それが駄目ですか、駄目だったら何です。温泉の有りようについてですね。それは、私は、先程縷々言うように年寄りの憩いの場であるし、数少ない場である。例えば、こんな電話がありました。庁舎を塗って、あんなことをしなくても温泉に皆入れたらいい。学校や子ども少ないのに何で温泉に入れないのかと。そんな電話もありました実は。この前の全協で言ったと思います。その学校の分は温泉に使うようなものではないのですよ。名前を言った人には説明いたしました。では、こっちを持っていくというふうなことは、これは違いますよということは説明しました。しかし、お年寄りのあの窓の素晴らしさロケーション、憩いの場、癒しの場というのは、これはもう私にもできれば続けていきたいと。しかし、赤字がどういうふうな形であるかという運営の中身を考えていかなければいけないから、3月31日まで審議会、私的何をこれは、また、皆さんにもご相談申し上げますけれども、10名ぐらいで考えていきたいというふうなことを申し上げたのであって、これは議会の皆さんにご承

認いただけたらと思います。それと、再度ですけれども、私が先程申し上げましたように冒頭で、これは落選するかも分かりませんし、現実問題として議員の皆さんもみんな変わるかも分かりません。だから、2期目はこういうふうに行きますよというのは、これはあたたかい町であり、ひとつづくりの町であり、学校をいわゆる小中9年制の義務教育、四国には無い学校を教育関係者と造ろう。それに対する予算もこれは特別と言ったら何ですが、便宜を図っていただいております。これは、また、後程具体的なことを申し上げますが、そういうふうなこと。それを言ったら町長、当選するのが分かっているようなことを言っても困るのではないかと問われないかと、私なりに人はいいい何ですけれども、そんなことも考えました。だから、あえて当初、骨格予算でもありますし、議案の説明だけに入らせていただきました。あと第一次産業の発展というのは、これは自治体の長に課せられた、これは永遠の課題と言いますか、現実の問題です。だから、私も精一杯ふるさと牟岐には奉仕し、いわゆる漁業の先程縷々述べられました漁業の方もおいでますけれども、どないかしてというふうなこと。まだまだ具体案は幾つかあります。アイデアもあります。これは、また、新たな議会で私がおかれてこの場に立つようになったら申し上げまして、議員の皆さんのご協力、ご支援をお願いするようになりたいと思います。以上です。

堤議長 もう1つ、町長、基金の問題、土地開発。

大神町長 基金のことにつきましては、これはちょっとこんな言い方をしたら何ですが、基金というのは、狭い意味でそれだけにしか使えないというふうな、また、デメリットもある訳です。だから、もしそういうふうな何がありましたら、今のさっき十分運用できるのではないかとというふうなことで、基金に拘らず、もっと広い意味でそういうふうな積立と言いますか、かつて海の総合文化センターの開発、或いは、土地購入には基金というふうなことでありましたのですが、そういうふうなことで対応できるというふうなこと。以上です。

堤議長 寒葉産業建設課長。

寒葉産業建設課長 先程の下川議員さんの再問の中での3,000千円という話でございますが、それにつきましては、3月31日で指定管理が終わって、次に再開するまで

に長期に亘って、例えば、閉鎖をすれば、次の再開時におきましては、機械のメンテナンス等によりまして、3,000千円以上、これは何千万円という可能性も十分ある訳でございます。その中で3カ月間、先程町長の中でございましたように3カ月間で方向を見出すということでございますので、3カ月間につきましては、あとのメンテナンス代を考えると、この3,000千円をお願いする方が町として良い得策ということでの提案でございますので、よろしくお願ひいたします。

堤議長 よろしいですか。

下川議員 総務課長、基金の方について。

堤議長 はい、総務課長。

大森総務課長 土地開発基金の関係につきまして、ご答弁させていただきます。実は、先程町長の方からも答弁がありましたように、17年3月の当初議会ですね、この段階で土地開発基金の条例を廃止しまして、取り崩しております。実は、この17年の3月と言いますのは、合併の協議をしていた時だと思っております。この当時ですが、交付税の大幅な減額がずっと続いておりまして、町の基金自体が殆ど底をついておりました。この時期で財調も20,000千円近くぐらいしかなかった当時でございます。それで町の小さい、或いは、殆ど活用されていなかった基金を多く取り崩しまして、財源として充てた時期でございます。その時に土地開発基金につきましても、9,500千円の積立額がございましたが、ずっとそのままの金額で推移しておりました。その当時、これも含めて取り崩して一般財源として充てたように記憶しております。今回、議員の方からのご提案と言うか、ご質問の中で土地開発基金を新たに作りまして、企業の誘致とかに使われたらどうかというようなお話なのですが、今のところ基金の額で申しますと、県下でも一番少ないぐらいの基金の額でございます。全部の基金の名目を含めましても少ない額となっております。それで現在殆どが財政調整基金、それと減債基金の方に積立をして運用しておりますが、当面の間につきましては、この形で持っていきたいと考えております。と言いますのは、これからの学校の建設とかそういった分について、当然財政調整基金の方からの繰り入れというような格好で推移すると思っております。新たに基金を今の段階で作って、別に積立をするという余裕もおそらく無かろうかと思っております。

す。ある程度の事業が終わりまして、余裕ができた段階でもう一度考えても良いのかなというふうには考えております。以上でございます。

堤議長 下川議員、よろしいですか。

下川議員 もう1点だけ。

堤議長 簡単に言ってください。

下川議員 再々質問でまことに申し訳ございません。ただ、町長が所信を表明しなかった。しかし、マニフェスト、町長の選挙対策のマニフェストで、これを理解して行って、町民に理解をしていってもらおうと言われております。しかし、私は議会と言うのは、本当に牟岐町の色々なことを議論し、施策を考えていくこの議会、私は一番行政を中心とならなければなりません。その時にやっぱり自分の考えというのは、こうなのです。議員の皆さん一つご理解いただきたいということを行うのが議会の重みなのです。一つそのことを十分町長は思っておられると思うのですが、一つ大事な議会ということを私は申し上げて再々問を終わります。以上です。